西中学校における人権教育の取り組み
～アイヌ民族出身者を講師として～

足利市立西中学校　柏　瀬　和　彦
〃　　大　澤　修　代

1　はじめに

学校における人権教育は、人の生きることをさまたげる障害や差別を自分の力で乗り越えることができる子どもを育てることを目指すものです。

教師が、人権問題をはじめ、様々な不安や悩みをもつ子どもを把握し、保護者とともにその子を支え励ます態勢を築いていくことが大切です。そのため、教師がこの子の悩みや不安は何なのか、この子につけなければならない力は何なのか、を見つめ続ける必要があります。また、人権問題で悩んでいたり、悩むであろう子どもの把握に努めるために、様々な人権問題が、今どのような形で残っているのかを認識しておく必要もあります。

本稿は、教師自身がアイヌの人々への差別を含めた人権問題についての授業を行い、アイヌ民族出身者とともに授業を行うことで、アイヌの文化についての認識を深め、生徒とともにアイヌ文化との出会いを豊かなものにすることをねらったものです。

2　「アイヌの人から学ぼう」の授業実践（道徳）から

(1)　ねらい

現代の人権問題を考え、差別や偏見をなくす態度を育てるとともに、アイヌの人の話を聞き、アイヌの生活や文化にふれ、日本の伝統や文化を継承しようとする態度を育てる。

(2) 指導観

現代社会において、いまだに差別事象が残っている。中学生になると、社会のあり方にも目を向けはじめ、現代社会がもつ矛盾に気づくことができるようになる。そこで、正しく人権問題を知ることが、偏見や差別を解消する上で大切であると考える。

アイヌの人々が北海道に住んでいることはわかっている生徒は多い。しかし、アイヌの人々のことを具体的にわかっている生徒は少ない。そこで、現代もアイヌの人々への差別が残っていることだけでなく、アイヌの文化に直接ふれる体験を通して、星野さんのアイヌ民族としての誇りをもつ生き方に共感させたいと考えている。アイヌ文化についての知識を得、星野さんと出会い、豊かで、いい体験をさせることで、差別や偏見をなくそうとする態度を育てるとともに、さらに伝統文化の継承に努める心につながるものと考える。

(3) 指導計画

1時・・・担任による道徳の授業

2時・・・星野さんによる授業（2クラス合同）

(4)　1時

ア　現代の人権問題ついて考える。＜4－（4）＞

イ　ねらい

現代の人権問題を考えたり、アイヌ問題のビデオを見ることにより、アイヌ問題を正しく知り、差別や偏見をなくす態度を育てる。

ウ　資料　ビデオ：「新・共生への道」　北海道ウタリ協会（約２５分に短縮）

内容　アイヌの歴史、現代のアイヌ問題。現代のアイヌの生活、これからのアイヌ

エ　指導の流れ

学習活動と主な発問	時間	指導上の留意点
1　教師の話を聞く。	2	・人権問題について考えていくことを話す。 (生徒の人権作文、先生の考え)
2　今の世の中にどんな差別（人権問題）があるか」	5	・指名しながら、自由に発言させ、出たものを板書し、補足説明をする。 ＜生徒から出やすいもの＞ いじめ、障害者への差別、セクハラ、幼児虐待、外国人への差別など ＜生徒から出にくいもの＞ 部落差別、アイヌの問題、高齢者問題など
3　「人権問題（差別）についてどう思う」	5	・数名の生徒を発表させる。 「差別はいけない」「自分がされたらいやだ」「よく分からない」
4　「『アイヌ』のことは知っていますか」	3	・人権問題や差別の問題は、正しいことをきちんと知ることが大事であることを話す。 ・アイヌの方に来てもらい、授業をしてもらうことを伝える。（星野工さん：アイヌ文化活動アドバイザー）「北海道」「蝦夷」「よく分からない」
5　ビデオを見る	２５	
6　教師の話を聞き、感想を書く。	１０	・見た感想を先生が話し、その後、感想を書かせる。（「差別をやめよう」ではなく、ビデオを見て、知ったことを生徒に伝えるように心がける） ・時間があれば、感想を発表させる。 ・次回の予告をする。

オ　他教科との関連

1・2年　社会科（歴史的分野）「アイヌの人々の歴史」

蝦夷地にアイヌ民族（室町時代）　シャクシャインの戦い（江戸時代）

アイヌの人々の生活の圧迫（明治時代）　アイヌの人の解放運動（大正時代）

アイヌ文化振興法（現代）

2年　社会科（地理的分野）「さまざまな文化を保存する各地のとり組み」

アッシ織を織るアイヌの女性

英語科「アイヌの生活や文化」

料理、衣服、文様

3年　社会科（公民的分野）「現代に残る差別」

アイヌの伝統文化を民族の誇りとして尊重

全学年　人権作文の活用

(5)　生徒の主な感想

・　私は今まで、アイヌの人々のことは、まったく知りませんでしたが、今日、ビデオを見て、アイヌの人々のことや生活の様子を知ってびっくりしました。これからもっと、アイヌの人々について知りたいと思いました。

・　「アイヌ」と言っても、私たちとまったく変わらない。差別するところを見つけるのが大変そうだ。

・　いじめはいけないと大人はいうが、大人たちが差別をしているなら、話にならないと思った。

・　昔からアイヌの人々が住んでいた土地や文化を幕府や政府が取り上げてしまったのはすごくひどいと思う。でもアイヌの人々の人権が確立されたのでよかったと思う。これからもアイヌの文化を人々に伝えてほしいと思う。

・　自分には民族など関係ないと思っていたけれど、気づいたら自分も差別をしているかもしれないです。だけど、同じ人間だから、一緒にうまくやっていくべきだと思います。

・　アイヌの人が差別を受けているのは知っていたけれど、今までアイヌの人がどんな人たちだが知りませんでした。でも、私たちと違うからといって、差別は良くないし、私たちがもっとアイヌの人たちのことを理解していくべきだと思いました。

・　このビデオを見て、初めてアイヌ民族の生活・文化について知りました。差別をなくし、昔のいろいろな生活・文化などを知ることもとてもいい勉強になると思いました。星野さんの授業が楽しみです。

・　アイヌのことはあまり知りませんでした。今日の授業で、民族文化を取りもどすためにいろいろな活動をしていてすごいと思った。

(6)　2，3時

ア　星野さんから学ぼう＜4－（4）、（9）＞

イ　ねらい

星野さんの話を聞き、アイヌの伝統文化に触れ、アイヌ文化に対する理解を深めるとともに、優れた

伝統文化を継承しようとする態度を育てる。

ウ　指導の流れ

学習活動	時間	指導上の留意点
1　教師の話を聞く。	5	・星野さんの紹介をする。 ・地域に住んでいる方 ・前回の授業を受けて、実際にアイヌの方に来てもらったこと
2　星野さんの講演を聞いたり一緒に体験する。＜途中休憩１０分間＞	70	○　アイヌの踊り ・バッタの踊り＜生徒、先生も参加＞ ○　アイヌの歴史と暮らし・差別問題 ・シャクシャインの戦い、クナシリメナシの戦いなど ・自然とともに暮らし、お年寄りを大切にし、お互いに助け合い、争いごとはしない。 ・差別問題　昔・今 ○　アイヌの言葉 ・身体、季節、家族、地名など ○　彫刻・刺繍 ・ペンダント、コースターなど ○　楽器 ・ムックリ（口琴）、トンコリ（五弦琴） ○　地球にはいろいろな動物、植物などがともに生きている ※　生徒に見せられる木彫り、刺繍 イタ（お盆）、トゥキ（高坏）、トンコリ、イタクパスイ（神様の箸）、マタンブシ（はちまき）、着物 ＜この間、教師は、星野さんの話を板書したりし、アシスタントをする。＞
3　教室にもどって星野さんへの感想を書く。	15	・　教師も星野さんから聞いて、感じたことを、生徒に話し、感想を書かせる。

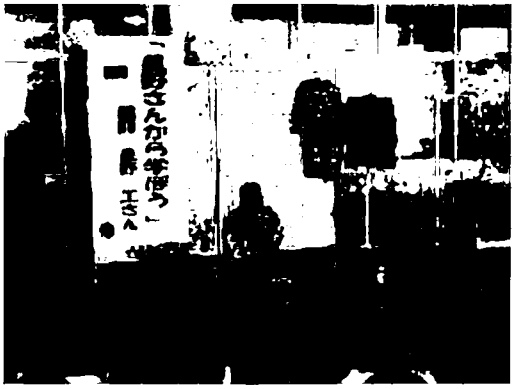
(7)　生徒の感想

・　アイヌの人たちはすごいですね。とても楽しそうでした。民族衣装も着て、その衣装もとてもきれいでした。一針ずつきれいに縫ってあってすごいなと思いました。私はとても気に入ってしまいました。かっこいいです。バッタの踊りも好きです。もっと踊りたかった。

・　私はアイヌのことをあまり知らなかったけれど、今日、星野さんに教えてもらってすごくうれしかったです。アイヌの服もけっこうおもしろくてびっくりしました。

バッタの踊りも教えてもらって、楽しい時間を過ごせました。最後の楽器も興味をもてました。私はアイヌの人はすごいんだと思いました。今回はよい経験になりました。

- いろいろな楽器、あいさつ、おどりなど、とても楽しかったです。ムックリの演奏もとてもよかったです。もっといろいろアイヌのことを知りたくなりました。本当にスィウヌカラアンロー。
- アイヌの人は、物を大切にすることがわかりました。物には一つ一つ神様がいるっていう考え方はとてもすてきですね。私もアイヌの人みたいに物を大切にできたらいいなと思います。
- 今日は昔アイヌでやっていた習慣や実際に使っていた物などが見られてよかったです。特に服が着られてうれしかったです。話を聞いて、アイヌの伝統などに興味をもちました。アイヌの人は自然やすべてのものを神だと思い、大切にしていくというのがとても感動しました。確かに日本は木などを切っていろいろな物を作っています。でもやっぱり自然は大切にしなければいけないと思いました。
- アイヌの人々が殺し合いではなく、話し合いで解決するというのはいいと思いました。いろいろな物を大切にし、助け合っていくというのは、いいなと思いました。
- 楽しい時間でした。日本は単一民族でないことがわかりました。昔から苦労をし、今までがんばってきたアイヌの人々のことを考えると本当にすごいんだなと尊敬しました。生きる勇気をあたえてくれました。北海道に行きたくなりました。もっともっとアイヌのことを知りたくなりました。
- アイヌの歌を意味もわからずに歌っていたけれど、意味を聞いて歌ってみたら、きれいな言葉ばかりだなと思った。「神様と人間は平等だ」という言葉にも感動した。
- 星野さんがアイヌの文化を愛する気持ちがとても伝わりました。北海道に行き、アイヌのお祭りをみたいです。身のまわりの人にも星野さんから学んだことを伝えていきたいです。
- アイヌ民族の暮らしや文化は、今までまったく知らなかったけれど、話を聞いてよくわかりました。最後の楽器はすごく音がきれいでした。歌も輪唱したとき、とても楽しかったです。日本の中でもアイヌのことを知らない人がたくさんいると思います。だから、みんなで教えていきたいと思います。
- アイヌの人々の生き方を聞き、現代の日本人が見習うべきことがたくさんあると思った。特に自分の身のまわりの食物や自然に感謝をすることを忘れてはいけないと思う。これからもアイヌの文化にふれる機会がたくさんあることを望んでいます。
- 星野さんが作った彫刻のナイフは１０万円以上もするそうですが、触ってみて、きれいにできていました。１０万円以上は納得しました。
- 今も少し差別が残っているなんてとてもさびしいです。同じ人間で言葉や暮らし方が違うだけなのにどうして差別を受けなければならないのだろう？私は今日の話を聞いて身近なところから差別をなくしていくべきだと思いました。
- アイヌの人は苦労しながらも、がんばって生きていてすてきだなと思いました。でも同じ人間なのに差別がおきてしまうのか、不思議でした。もっとアイヌの文化を理解して、お互い差別のないよい社会になってほしいと思いました。



3　教師の感想

- 担任がアイヌの人々についての授業するためには、アイヌの人々についての知識も必要だと思った。
- 私自身も大変勉強になりました。アイヌの人々への差別問題もとても大きな問題であることを感じました。
- 専門的な知識をもった外部の方の影響力は素晴らしいと思った。自分も洋上研修で白老にいって、その時の知識になっていたが、今回の機会があり、アイヌのことが一層深まったし、親しみやすかった。
- アイヌのことについて、担任をしていることで勉強になった。ありがたかった。
- 星野さんの授業は、アイヌ独自の着物や木彫り、音楽など興味深く見ることができました。
- アイヌの人々について言葉は知っているけれど、どういう民族なのか、今まで受けてきた差別などについて未知の世界だったので、とても真剣に話を聞こうとしていました。私自身も勉強になり、とてもよかったと思います。
- アイヌの問題だけでなく、いろいろな時代、場面で厳しい現実がある。多くの事実を知ることで、差別はダメなことだと確認できる。星野さんのように、文化を伝え、広めようとするのはとても大変で、エネルギーのいることだと感じた。
- それぞれの生き方を尊重するという言葉が印象的でした。違う生き方を尊重することが、自分の生き方を尊重してもらうことにつながると思いました。
- 伝えたい心は何か？メッセージが子どもにうまく伝わったと思います。
- アイヌの人々についてほとんどの生徒が知らなかったけれど、この授業でアイヌの人々のことに興味・関心が高まった。いい経験になった。
- 生徒のほうが、純粋に受け入れられているような感じがしました。歴史的背景も、社会科の授業の知識が役立っていたようです。
- 私が予想した以上に、一人ひとりが真剣にアイヌの問題を考えていることがわかりました。他の人権問題もそうだが、機会を見つけて、生徒に考えさせたり、行動させることが差別や偏見をなくしていくものだと思った。
- 日本の中の大切な民族の問題だという意識を生徒がもったと思います。
- 生徒の反応は、「アイヌの人だって日本人なんでしょう？」「何もかわらないよね」と言っていました。「みんな同じ人間じゃん」という声に出した生徒のあとに「そうそう」とみんなうなずいていました。
- 生徒が新鮮な気持ちで受け入れていたことが、すごく感心しました。

・　生徒が、差別の歴史や着物の模様の由来などに関心をもったようです。
・　生徒の中で、色の付いていない部分の内容だったので、新鮮に受けとめられ、とてもよかったです。
・　むずかしい内容もあったが、子どもたちはよく話を聞いていました。星野さんの一生懸命さが伝わってきました。
・　ほとんどの生徒が、興味をもって聞いていました。普段の授業ではあまり意欲的でない生徒も踊りがすごかったという感想を書いていました。

4　実践を終えて

○生徒の感想から

・　アイヌ文化を生徒が体験したことで、興味・関心をもった。
・　アイヌ文化のすばらしさを生徒が理解した。
・　アイヌ文化を知ることにより、生徒が自分の生活を振り返った。
・　アイヌ文化の話を、他の人に話そうという生徒がでてきた。
・　星野さんの生き方に共感する生徒がでてきた。
・　アイヌ民族に対する差別は、おかしいと考える生徒が増えた。

○教師の感想から

・　授業を行うのにあたり、アイヌの人々のことを勉強したことで、教師がアイヌの人々のことを理解するようになった。
・　星野さんと授業をすることにより、アイヌ文化について教師が興味・関心を深めていた。
・　生徒が学ぶ姿を見て、アイヌ文化を学ぶことは大事なことだと考える教師がいた。
・　アイヌの問題だけでなく、他の差別問題や人権問題に関心をもつ教師がでてきた。

教師が授業をすることで、アイヌの人々のことについて知り、星野さんと授業をすることで、さらにアイヌ文化についての認識を深めることができました。教師にとっても、生徒にとっても、アイヌ文化といい出会いをし、いい体験ができ、自分の世界が広がっていくものと考えられます。「アイヌ」のイメージは、星野さんのイメージに同一視されると思われます。

人権問題は、「差別はいけない」だけではないでしょう。アイヌの問題のことを通して、星野さんのことを語れる教師、生徒が出てくるものと考えられます。もし、アイヌ民族出身の生徒がクラスにいたとしたら、明るく「『アイヌ』ってすごいな」と直接その生徒に言える教師になりたいものです。

他の人権、人権問題についても、教師はその問題についての認識を深め、生徒や保護者の前で抵抗なく、話せるように努めていくことが大切です。

評

足利市の学校における人権教育は，一人一人の教師が子供を丁寧に見つめ，子供の思いや願いに寄り添い励ますことによって，子供自らが不安や悩みを乗り越え，勇気をもって生きていくことができるよう支える教育です。つまり，教師一人一人の子供を見る眼を養う教育であり，すべての子供にかかわる教育です。

今，目の前にいる子供たちは，様々な不安や悩みを心の中に秘めながら学校生活を送っています。その不安や悩みは，一人一人皆違います。どんなことに不安を抱いているのか，どんなことで悩んでいるのかを理解しなければ，支え励ましていくことはできません。そのため，教師が子供の人権にかかわる認識を深めていくことを基盤に据えて，かけがえのない存在である子供たちをより丁寧に，より深く見つめていくことが重要となります。

そのような中，西中学校では，生徒たちが様々な人権問題について正しく理解するための授業を展開するとともに，教師自らが授業を通して様々な人権問題についての認識を深める研修に取り組まれました。

本実践では，様々な人権問題が存在するなか，特に「アイヌ」に焦点を当てて，市内在住のアイヌ民族出身者を外部講師に招き，優れたアイヌの文化や歴史に直接触れる体験を通して，生徒たちはアイヌ文化との出会いを豊かなものとしています。それは，生徒たちの授業後の感想の中にある「アイヌの人たちはすごい」「日本は単一民族ではないことがわかった」「アイヌのことをみんなに教えていきたい」「アイヌのことをもっと知りたい」「アイヌの人々に対する差別があるのはおかしい」などからも大いに伝わってきます。また，教師がアイヌ民族出身者と共に授業を行うことにより，生徒と同様に教師自身のアイヌの人々に対する認識を深めることとなっています。

アイヌの人々に対する差別が現存する今，生徒たちがアイヌ文化とどのように出会うかは，今後生徒たちが出会うであろうアイヌの人々に対する意識に大きな影響を及ぼします。そして，教師にとっては，アイヌ民族出身の生徒をアイヌ民族の子として見ていくことができるようになることでしょう。

今後においても，教師が人権にかかわる認識を深めていくことを基盤に据えて，子供自らが不安や悩みを乗り越え，勇気をもって生きていくことができるよう支え励ます教育の実践を継続して取り組んでいかれることを期待しています。